

郡山一明（著）
病院前救護学

南浩一郎

一般財団法人救急振興財団救急救命東京研修所教授

「病院前救護学」というと今まで
はそれを簡潔明瞭に説明できる書は
なかったように感じる。そもそも、
救急救命士制度は1991（平成3）年
4月23日に救急救命士法が制定さ
れて制度化された。成立してわずか
20年しか経過していない新しい制
度である。『病院前救護学』の著者
である郡山一明先生は、その創生期
から救急救命士教育の中心となり活
躍されてきた。病院前救護学とは何
かを問うには、著者をおいて他には
いないのではないかと私は思ってい
た。

この本の大きな特徴は、著者が救
急医療、救急救命士養成、救急医療
行政という3つの最前線に立ってい
た経験に基づき、病院前救護とは何
かを三次元的視点から簡潔明瞭に述
べている点である。医療関係者から
の視点のみの場合、ややもすると
「病院前救護学」を疾患別に対応す
る救護マニュアルにしてしまいがち

になる。また、そのような著書は救
急医向けには多く書かれている。ま
た、救急救命士養成者の視点からで
は、何を教えればよいのかという教
育論になりがちである。また、行政
に携わってきた人によると、行政か
らみた救命士制度論になってしまう。
本書は、「病院前救護とはどういう
ものか？」という問いに、病院前救
護の定義、現場論、チーム論、訓練
論、人材育成論、地域解析論、将来
的な救命士像という視点から解析し、
体系化している。

さらに、この『病院前救護学』の
特徴になるのは、随所に使用された
図や表である。郡山先生の講義を受
講したことがある方は納得できると
思うが、著者の講義はとにかくわか
りやすい。講義中のスライドに使用
される図は、抽象化した概念を頭の中
できちんと具体化させてくれる。
また、この図が珠玉であり、本書を
読み返すときには図を追いかけるの

みで内容が蘇ってくる。これは、著
者の類まれな才能を反映したもので
あり、他書にない魅力ではないかと思
われる。

私自身、救命士教育に携わって
10年以上経過した。業務をこなす
日常に追われて、「病院前救護学」
とは何かを体系化する努力などまっ
たくしてこなかったと感じる。また、
現場で日々活躍されている救急救命
士や救急医においても同じではない
かと推察される。知識、経験は豊富
であるが、整理がついていないとい
う方には、本書の一読を強く薦める。
また、これから救急救命士をめざす
方、救急医をめざす医師、救急行政
に携わる方には必読の書ではないだ
ろうか。

●B5/頁178/2020年09月

定価：本体3,600円＋税

[ISBN978-4-260-04275-8]

医学書院 刊